

和光大学
連続市民講座
2017

日本の中の アジア 再発見

10/3
tue

10/10
tue

10/17
tue

10/24
tue

18:30~20:30



会場 和光大学ポプリホール鶴川
3F 多目的室
(小田急線 鶴川駅北口 徒歩3分)

和光大学 www.wako.ac.jp/

町田市共催事業 / (財) 町田市文化・国際交流財団共催事業 / 川崎市教育委員会連携事業

№1 テュルクと日本の意外なつながり

坂井 弘紀 [総合文化学科 教授]



10/3
tue

№2 七福神の故郷を訪ねて

澁谷 利雄 [身体環境共生学科 教授]



10/10
tue

№3 獅子、トラ、チャルメラ —民俗文化の国際性

長尾 洋子 [総合文化学科 准教授]



10/17
tue

№4 日本古来の自然は国際的

堂前 雅史 [身体環境共生学科 教授]



10/24
tue

№1 テュルクと日本の意外なつながり

シベリアからヨーロッパにいたるユーラシア大陸には、テュルク系(トルコ系)の人々が暮らしています。有名なところでは、トルコやウイグル、ウズベクなどの民族が知られているでしょう。「テュルクを知れ、そうすれば世界がわかる」という言葉の通り、テュルクの人々は、世界史の影の「主役」であったともいえます。日本では、あまりなじみの薄い人々ですが、実は日本とは浅からぬつながりをもっています。日本とテュルクとの意外な関係を学びましょう。

坂井 弘紀

[総合文化学科 教授]

専門は中央アジア文化史、テュルク英雄叙事詩研究。中央ユーラシアのテュルク系諸民族に伝わる口承文芸(英雄叙事詩や神話、伝説)を中心に、彼らの文化や歴史について幅広く研究している。著書に『中央アジアの英雄叙事詩』(東洋書店)など。

№2 七福神の故郷を訪ねて

江戸時代に大衆化した七福神巡りは盛衰を経て今なお続いている。日本ではありふれたおなじみの神々の信仰である。7人の神々の出身は、恵比寿神を除いて他は外国で、大黒天、弁才天、毘沙門天がインド、布袋、福祿寿、寿老人が中国と、国際的である。また背景も、神道、仏教、道教、ヒンドゥー教にまたがっている。ここではインド出身の神々の故郷を訪ね、日本とかの地での信仰の実態を比べてみたい。

澁谷 利雄

[身体環境共生学科 教授]

専門は文化人類学、南アジア現代史。スリランカの祭り、民族紛争、民衆宗教、食文化など、スリランカを中心とした南アジアの文化研究。1995年から、スリランカに関する情報を持ち寄り分かち合う場としてスリランカ研究フォーラムを主催している。スリランカ野鳥観察会会員。著書に『祭りと社会変動』(同文館)など。

№3 獅子、トラ、チャルメラ —民俗文化の国際性

お正月といえば獅子舞、祭りといえば笛太鼓。いかにも日本らしい、民俗文化の「代表選手」と思われるものも、異なる文化と接触することで形成されてきた側面があります。東アジアで古来百獣の王として崇められた獅子、東南アジアで広く信仰される虎という視点から、あらためて日本の民俗芸能を眺めてみたいと思います。また祭りで奏でられる楽器には、アジアのみならず世界をめぐる音色の旅路を見せてくれるものがあります。民俗芸能にギュッと詰まったアジアを味わいましょう。



写真：富山の獅子舞

長尾 洋子

[総合文化学科 准教授]

専門は文化地理学。地方文化の形成、地域伝統行事、民謡についての研究に携わる。最近では民俗芸能を音楽史、文学、観光研究、都市文化などと関連づけることに面白さを感じている。共著に『民謡からみた世界音楽 うたの地脈を探る』(ミネルヴァ書房)、『おわらの記憶』(桂書房)など。

№4 日本古来の自然は国際的

古くから日本人は自然に親しみ楽しんできたとされていますが、一方で日本固有の自然とされているものでも、実は国際的往來の歴史の賜物であることも少なくありません。

伝統的に親しまれている秋の七草では1種が、春の七草では5種がアジア等からの外来植物とされています。錦鯉や金魚などの日本的な動物も中国起源です。現代の外来生物問題とも繋げながら、日本人が自然や生物の関係の中に創りだした文化の中にアジアなど国外とのつながりを考えて楽しんでいきたいと思ひます。



写真：シャガ

堂前 雅史

[身体環境共生学科 教授]

専門は動物行動学、科学技術社会論。科学技術と社会が関わりあい、科学の問題であっても科学だけで決定可能ではない問題。特に先端生命技術や自然保護の現場について研究している。共訳に、『ケイン生物学』(東京化学同人)など。

※内容は変更となる場合がございます。

■ 会 場 和光大学ポプリホール鶴川 3F 多目的室 (小田急線鶴川駅北口徒歩3分)

■ 受講料 各回500円 (※学生無料)

■ 定 員 各回50名 (※先着順)

■ 申込方法

ハガキ、FAX、Eメールで「連続市民講座2017 日本の中のアジア再発見」と明記し、①氏名(フリガナ) ②郵便番号・住所 ③電話番号 ④参加する回(第〇回、全4回など)をご記入の上、「和光大学企画係大学開放フォーラム」までお送りください。なお、各回の開催日1週間前までにお申込みください。

※お電話でのお申込みはご遠慮ください。

お問い合わせ・お申込み

和光大学 企画係 大学開放フォーラム

〒195-8585 東京都町田市金井町2160

Tel 044-988-1433 Mail open@wako.ac.jp

Fax 044-988-1594 URL www.wako.ac.jp/

